

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 7年 10月14日

事業所名:放課後等デイサービス サガセル

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善 内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で 適切である	4	2		活動内容に応じてスペースの 配置を工夫し、安全で広く活 動できるよう配慮しています。	活動中に危険が想定される場所について、怪我防 止のためクッション材を追加設置します。また、支 援員の配置については、活動ごとのリスクを踏ま えてMTで具体的にすり合わせを行い、安全確保 体制を強化します。
	②	職員の配置数は適切である	6			外出やイベント時など、活動 内容に応じて安全面を最優先 に考え、事前に職員間で人員 配置を検討・共有しています。 特に利用者の特性やリスクを 踏まえた配置を行うことで、事 故防止と円滑な支援を図って います。	今後は、日常活動時にも支援内容に応じた最適 な人員配置を検討し、より均一な支援体制を構築 することを目指します。また、急な欠員や想定外 の状況にも柔軟に対応できるよう、バックアップ 体制や配置基準の明確化をMTで共有・確認して いきます。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	1	3	2	施設内のちょっとした段差や 転倒の危険がある箇所につ いては、お子様が通行する際 に事前に職員が声かけを行 い、安全に移動できるよう配 慮しています。また、活動内容 や利用者の特性に合わせて 動線を確認し、安心して過 せる環境づくりに努めてい ます。	今後は、利用児の成長や利用状況に応じて、安全 面をより強化するために、必要に応じて手すりの 設置や段差解消などの環境整備を検討します。定 期的に職員間で安全点検を行い、バリアフリー化 のさらなる推進を目指します。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル （目標設定と振り返り）に、広く職員が参画し ている	4	2		課題となっている事柄につ いて定期的にMTで話し合い、改 善策を共有しています。その 後、実施結果についても振り 返りや意見交換を行い、職員 全体で情報共有を図るように しています。	現状では、具体的な数値目標や達成基準を明確 に設定できていないため、今後は課題ごとに「何 をもって改善・達成とするか」を具体的に定めたう えで話し合いを行います。また、PDCAの流れが明 確になるよう、会議での目標設定・進捗・振り返 り内容を記録として残り、次回の改善活動に活 用していきます。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	6			来年度の利用意向調査や、パ ARENTトレーニングに関する アンケートを実施し、保護者の 要望や関心を把握していま す。得られた意見を基に、支 援内容や保護者支援の在り 方を見直すなど、業務改善に 活用しています。	アンケート結果の活用方法が十分に整理されて いないため、今後は結果を職員間で共有し、改 善内容を次年度計画に反映します。また、保護 者へのフィードバックを行い、信頼関係の向上 と意向把握の精度向上に努めます。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	6			保護者から特にご意見がな かった項目についても、より良 い支援・運営を目指して改善 点を検討し、次年度に活か せるよう評価表の作成に努 めています。	自己評価結果は会社ホームページで公開して います。また、会報や掲示物なども検討し、情 報発信の機会を増やすことを目指します。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業 務改善につなげている	2	3	1	現在は第三者による正式な外 部評価は実施していません が、系列事業所の職員が来所 した際に、設備や支援内容 などについて意見をもらい、 日々の業務改善に活かしてい ます。また、他事業所の取り 組みを参考にしながら、質の 向上に努めています。	今後は必要に応じて、第三者による外部評価 の実施を検討し、客観的な視点から事業所運 営の課題や改善点を把握できる仕組みを整え ていきます。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	6			各職員に対し、年1回以上の 研修受講を義務づけること で、専門知識や支援技術の 向上を図っています。職員の 学びを支援し、質の高いサ ービス提供に努めています。	今後は、各職員が研修で得た知識や気づきを 系列事業所間で共有し、会社全体として資 質向上を図ります。また、研修内容を実践に どう活かすかを振り返る機会を設け、継続 的な学びにつなげていきます。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	6			送迎時や連絡帳でのやり取り の中で気づいたことを保護 者と共有し、必要に応じて電 話やSNSを活用して支援方針 を確認しています。こうした日 常的なコミュニケーションを通 じて、ニーズや課題を継続 的に把握し、計画作成や見 直しに反映しています。	アセスメント内容をより体系的に整理し、職員 間で情報共有する仕組みを強化します。また、 保護者からの意見や要望を計画に反映した際 には、その経過や結果を丁寧にフィードバック することで、協力的な支援体制をさらに充 実させます。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	5	1		お子さまの気になる行動や言 動、普段と異なる様子が見 られた際には、MT時に職員 間で共有しています。そのう えで、行動の前後の状況や環 境要因から原因を考察し、同 様の場面での対応に活かし ています。また、変化が見ら れた際には速やかに保護者 にも報告・共有し、連携を 図るよう努めています。	現在は標準化されたアセスメントツールを 導入していませんが、今後は必要に応じて適 切なツールを検討・導入し、支援計画の客 観性と一貫性を高めていきます。また、ツ ール活用後はその結果を保護者と共有し、 よりの確かな支援につなげていきます。

(放課後等デイサービス)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善 内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			月ごとの特別活動を計画する際には、職員間で話し合いを行い、活動内容が偏らないように調整しています。同系統の活動が続かないよう工夫することで、児童がさまざまな体験を通して意欲的に参加できるよう配慮しています。	今後は、児童の興味・関心や発達段階をより反映させたプログラムづくりを目指し、活動後の振り返りをチームで行って次の計画に活かしていきます。また、保護者からの意見や要望も取り入れ、より多角的な視点で活動内容を充実させていきます。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			月ごとや日ごとにテーマやねらいを変え、季節行事や創作活動、運動遊びなどをバランスよく取り入れることで、子どもたちが飽きずに楽しく参加できるよう工夫しています。	今後は、子どもたちの興味・関心や発達段階をより反映させたプログラムづくりを目指します。また、活動後の子どもの反応を職員間で共有し、次回以降の内容や構成を改善するなど、継続的なプログラムの見直しを行っていきます。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1		サービス提供時間に応じて活動内容を工夫し、平日は課題学習や個別支援を中心に取り組み、進捗をシートで「見える化」することで子どもが目標を持って取り組めるようにしています。休日や長期休暇には、普段できない特別活動や体験学習を計画し、社会性や達成感を育む支援を行っています。	今後は、活動ごとの成果や子どもの反応を記録・共有し、個々の成長に合わせた課題設定をより具体的に行えるよう努めます。また、保護者とも課題の達成状況や家庭での様子を共有し、一貫した支援体制の構築を目指します。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			お子さま一人ひとりのその時の様子やコンディションを踏まえ、保護者と連携しながら個別活動と集団活動のバランスを考えて計画を立てています。体調や気分に応じてスケジュールを柔軟に調整し、無理なく楽しく参加できるよう寄り添った支援を行っています。	今後は、活動中の様子や支援効果を定期的に記録・分析し、個別と集団の割合や内容をより適切に調整できるようにします。また、保護者との情報共有をさらに充実させ、家庭との連携の中で一貫した支援が行える体制を強化していきます。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	6			始業時のMTにて、当日のプログラム内容、前日の支援状況、連絡事項などを全職員で共有しています。特別活動などについては、事前に人員配置や作業工程をまとめた計画書を掲示し、役割分担や流れを明確にすることで、安全かつ円滑な支援が行えるよう努めています。	今後は、打合せ内容を簡潔に記録し、活動後の振り返りと合わせて次の支援に活かせるよう体制を整えます。また、新人職員や非常勤職員にも情報が行き届くよう、共有方法を統一し、チーム全体で支援の質をより高めていきます。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3		支援中に気付いた点や緊急性のある事項は、速やかに職員間で共有しています。また、支援後には申し送りノートや始業時のMTを通して、子どもの様子や対応方法、今後の支援方針などを全職員で確認し、情報の一貫性を保つよう努めています。	今後は、振り返りの内容を簡潔に記録し、継続的な支援改善に活かせるよう体制を整えます。また、共有事項の優先度や対応方針を明確にし、誰がどのようにフォローするかを可視化することで、より質の高いチーム支援を実現していきます。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1		子どもの普段と異なる行動や言動、気になる様子があった際には、連絡帳などを活用して記録を残し、保護者と共有しています。また、職員間でもその情報を共有することで、支援の一貫性と適切な対応を心がけています。	今後は、記録内容をより具体的に整理し、支援の経過や変化が分かりやすく確認できるよう改善します。また、定期的に記録を振り返り、支援方針や対応方法の見直しに活かすことで、より質の高い支援の継続を目指します。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			保護者との相談を通じて、支援目標の変更や計画内容の見直しを随時行っています。また、お子さまの発達状況や生活環境の変化に応じて、利用日数や支援内容を柔軟に調整し、より適切な支援が行えるよう努めています。	今後は、モニタリングの実施時期や内容をより明確化し、記録として体系的に残すことで、計画変更の根拠を明確にします。また、モニタリング結果を職員間で共有し、支援方針の統一と継続的な質の向上を図ります。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6			ガイドラインに基づき、複数の基本活動（創作活動、運動遊び、集団活動、個別課題など）をバランスよく取り入れられています。特別活動については、お子さまの興味や要望を反映し、楽しみながら学びにつながるよう工夫しています。	今後は、活動内容と個別支援計画との関連をより明確にし、目的を意識した支援の実施を目指します。また、活動後の子どもの反応や成果を職員間で共有し、次のプログラム構成や支援方法の改善に活かしていきます。

(放課後等デイサービス)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善 内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	㉔	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	6			話し合いの内容や目的に応じて、子どもの状況を最もよく把握している職員が会議に参加し、必要に応じて専門職を交えた情報共有を行っています。支援経過や家庭の様子などを丁寧に伝えることで、関係機関との連携を強化しています。	今後は、会議参加後の情報共有体制をさらに整備し、全職員が会議内容を把握できるよう記録・報告方法を統一します。また、必要に応じて他機関との連携を密にし、より効果的な支援方針の検討につなげていきます。
	㉕	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡）を適切に行っている	6			行事予定やクラブ活動などの情報については、保護者を通じて事前に共有いただくほか、必要に応じて学校にも直接確認を行っています。また、下校時刻の変更やトラブル発生時には速やかに学校と連携し、安全かつ円滑な支援提供に努めています。	今後は、学校との情報共有の方法や連絡ルートにより明確化し、迅速で確実な情報伝達を図ります。また、学校・家庭・事業所の三者での連携体制を強化し、子どもの支援に一貫性を持たせられるよう取り組みます。
	㉖	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	3	2	契約時にサポートブック等を通して、医療的ケアやアレルギーの有無を事前に確認しています。また、特別活動などの際には、必要に応じて再度アレルギーの確認を行い、安全に活動できるよう配慮しています。現在は医療的ケアを必要とするお子さまはいませんが、将来的な受け入れに備えて職員の知識向上や緊急時対応の体制づくりに取り組んでいます。	今後は、医療的ケア児の受け入れが想定される場合には、主治医や看護師、保護者との連携体制を明確に整備し、緊急時の対応マニュアルを策定します。また、職員への研修機会を設け、安全で安心できる支援環境を構築していきます。
	㉗	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	2	4		児童一人ひとりの発達状況や支援の経過を正確に把握するため、必要に応じて児童発達支援事業所等との情報共有を行っています。	今後は、情報共有の方法をより体系的に整備し、連携のタイミングや内容を明確にすることが課題です。保護者にも積極的に参加していただける仕組みを取り入れ、家庭と事業所が一体となった支援を進めます。これらを通じて、子ども一人ひとりが安心して成長できる環境づくりをさらに強化していきます。
	㉘	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所か ら障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	3	2	1	現時点では当事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行したお子さまはいませんが、他の放課後等デイサービス併用しているお子さまを含め、関係機関や相談支援員との情報共有を丁寧に行っています。今後、移行対象となるお子さまが出た際には、これまでの支援内容や成長の様子を正確に引き継げるよう、関係機関との連携を一層密にしていく方針です。	今後、障害福祉サービス事業所等への移行が見込まれるお子さまに対して、早い段階から関係機関との情報共有や引き継ぎの準備を進める体制を整えていくことが課題です。特に、支援内容や成長の記録を体系的に整理し、次の事業所でも継続した支援が行えるような仕組みづくりを目指します。これにより、子どもたちが環境の変化に戸惑うことなく安心して新たな生活をスタートできるよう支援していきます。
	㉙	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修を 受けている	3	3		系列店にて児童発達支援事業所を運営し、就学前のお子様への支援を行っております。児童発達支援事業所では、保育園・幼稚園・認定こども園との情報共有や相互理解に努めており、児童一人ひとりの発達状況や支援経過を正確に把握するため、系列店との連携・情報共有を行っています。	児童発達支援事業所との情報共有は行っておりますが、放課後等デイサービス側における情報の活用方法が職員間で統一されていない部分がございます。今後は、共有された情報を日々の支援や記録に効果的に活かすことができるよう、情報共有フローの明文化や職員間での定期的なケース検討会の実施に努めます。また、情報共有シートのフォーマットを統一し、支援記録・個別支援計画への反映をスムーズに行えるよう改善を進めます。
	㉚	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	1	1	4	現在は放課後児童クラブや児童館との直接的な交流は行っていないですが、地域の子どもたちと自然に関われるような環境づくりを意識しています。日常の活動の中でも、他者との関わり方や協調性を育む機会を大切にし、社会性の発達につながる支援を行っています。また、今後の交流活動に向けて、地域の行事や施設の情報を収集し、連携のきっかけづくりに努めています。	系列店との情報共有をさらに充実させ、放課後等デイサービスでの支援により効果的に反映できるよう、共有内容の整理や活用方法の工夫に努めます。今後も連携体制を強化し、より一貫した支援を行えるよう改善を進めます。

(放課後等デイサービス)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善 内容又は改善目標
	㉓	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に 参加している	2	2	1	現在は地域自立支援協議会 などへの参加実績はありませ んが、地域の福祉や支援の動 向を把握するため、関連情報 の収集に努めています。ま た、他機関とのつながりを意 識し、必要な際に円滑に連携 できるよう体制の準備を進め ています。今後の協議会参加 に向け、地域とのつながりを 大切にしなが、より効果的な 支援のあり方を検討してい ます。	現時点では地域自立支援協議会等への参加実績 はありませんが、今後は地域との連携を強化す るため、積極的に参加を検討していきます。 参加を通して他機関との情報共有や支援方法 の学びを深め、事業所の支援体制の充実を図り ます。これにより、地域全体で子どもや家庭を支える 一員としての役割を果たせるよう努めます。
	㉔	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子 どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	6			日々の送迎時や連絡帳、SNS などを活用し、保護者との情 報共有をこまめに行ってい ます。子どもの小さな変化や成 長の様子を丁寧に伝えること で、家庭との共通理解を深 め、支援の一貫性を保つよう 努めています。また、保護者 からの相談や不安にも寄り添 い、必要に応じて関係機関と 連携し、ケース会議等を通じ てより適切な支援につなげて います。	今後の課題として、保護者との情報共有の方法を より体系的に整え、子どもの成長や課題をよりの 確に把握できる仕組みを強化することが挙げられ ます。定期的な面談やアンケートなどを通じて、保 護者の意見や要望を積極的に取り入れ、支援計 画の改善につなげていきます。これにより、家庭と 事業所が一体となって子どもの発達を支える、よ り信頼性の高い連携体制を築いていきます。
	㉕	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	4	2		専門職が定期的に保護者の 皆さまへお便りをお届けし、子 どもの発達や支援に関する情 報を分かりやすくお伝えする よう努めています。また、保護 者の方が継続的に学べるよう 、系列事業所も含めたペア レントトレーニングの実施を 検討しています。ご家庭と協 力してお子さまの成長を支 えられよう、連携を大切に しています。	一部の保護者の方にご参加いただく機会が限 られていることや、情報発信が一方になりやす い点が課題と感じております。今後は、保護者の皆 さまからのご意見やご要望を伺う機会を設け、双 方向のやり取りができるよう検討してまいります。 また、家庭で取り入れやすい支援内容となるよう 工夫し、より実践的なサポートを目指して努めて まいります。
保 護	㉖	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	6			契約前や契約後など、節目ご とに丁寧な説明を行うよう心 掛けております。特に、支援 の内容につきましては、送迎時 や記録のご説明の際、また連 絡帳などを通して日々の様 子をお伝えするよう努めて おります。	支援内容や事業運営に関する情報が保護者の皆 さま全員に均等に伝わりにくい場合があることを 課題と感じております。今後は、説明の方法や タイミングについてさらに工夫を重ね、理解を 深めていただけるような資料や説明機会の充 実を検討してまいります。また、ご質問やご 意見を伺いやすい雰囲気づくりに努めて まいります。
	㉗	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			保護者の皆さまからのご相談 は随時お受けし、お子さまの 様子やご家庭でのお悩みに 対して丁寧に話を伺うよう 努めております。相談内容に 応じて、学校や相談支援専門 員などの関係機関とも連携 を取りながら、悩みの解消に 向けて寄り添った支援を行う よう心掛けております。	ご相談をいただく際に、保護者の方がさらに 気軽に話しやすい環境づくりが今後の課題 と感じております。今後は、相談の機会や 時間の設定をより柔軟にし、安心して お話しいただける体制づくりに努めて まいります。また、相談内容を職員間で 共有し、一貫した支援ができるよう 連携体制の強化を検討してまいります。
	㉘	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連 携を支援している	4	2		現在、父母の会や保護者会な どの正式な会はございません が、特別活動や季節の催しを 通じて、保護者の皆さま同士 が自然に交流できる機会を 設けるよう努めております。行 事の際には、保護者の方同士 でお子さまの成長を共有し たり、意見交換ができるよう 雰囲気づくりを心掛けて おります。	保護者同士のつながりをさらに深めるための 機会が限られていることを課題として 感じております。今後は、負担にならない 形で意見交換や情報共有が できる場のあり方を検討し、保護者の皆 さまが安心して交流できる環境づくりに 努めてまいります。また、ご希望がある 場合には、小規模な懇談会などの開 催も視野に入れてまいります。
	㉙	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保 護者に周知し、苦情があった場合に迅速 かつ適切に対応している	6			護者様からご要望やご意見、 気になる点などをいただいた 際には、職員全体でのミー ティングにて内容を共有し、必 要に応じて対応策を検討して おります。場合によっては、職 員研修を実施し、今後の支 援や対応の質を高めるよう 努めております。保護者様の 声を大切に、より良い支援 体制づくりに心掛けて おります。	苦情やご意見をお伺いする際に、より 安心して話していただけるような環 境づくりが課題であると感 じております。今後は、相談や意 見を伝えやすい仕組みや窓口の 周知方法について検討し、より 迅速かつ丁寧な対応ができる よう努めてまいります。また、職 員間での情報共有を徹底し、一 貫した対応ができる体制づくりに 取り組んでまいります。

(放課後等デイサービス)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善 内容又は改善目標
護 者 へ の 説 明 責 任 等	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	4	2		活動内容や行事予定につきましては、療育カレンダーなどを通してお知らせし、行事が近づいた際には改めてご案内を差し上げるよう徹底しております。また、特別活動や催し事については早めに周知することで、ご家庭での予定が立てやすいよう配慮しております。保護者の皆さまに安心してご参加いただけるよう、分かりやすく丁寧な情報発信を心がけております。	SNSや紙面など、複数の情報発信手段を活用しているものの、すべての保護者の方に確実に情報が届いているとは限らない点を課題と感じております。今後は、各ご家庭の利用しやすい媒体を確認しながら、より分かりやすく、受け取りやすい情報発信方法を検討してまいります。また、発信内容についても、写真や具体的な活動紹介を通じて理解が深まるよう工夫していきたいと考えております。
	③⑤	個人情報に十分注意している	6			活動中の写真などをSNS等で使用する際には、個人が特定されないよう画像の編集や加工を行い、慎重に取り扱うよう徹底しております。また、施設外での会話や書類管理においても個人情報が漏洩しないよう、職員研修を定期的に実施し、全職員で意識を高めております。保護者の皆さまに安心してご利用いただけるよう、日々注意を払っております。	個人情報の管理については、今後も社会的な動向や法令の改正などに対応していく必要があると感じております。今後は、より一層職員の意識向上を図るとともに、情報管理に関する研修内容の見直しやマニュアルの更新を検討してまいります。また、保護者の皆さまにも情報の取り扱い方について丁寧に説明し、安心してご協力いただけるよう努めてまいります。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	5	1		言葉だけでなく、表情や動作などのノンバーバルな方法でも気持ちを伝えられるよう、保護者や学校と連携して支援の方法を共有しております。訓練室にはポディサインのイラストを掲示し、職員だけでなく他のお子さまも自然に活用できるよう工夫しております。また、過去には手話のボランティア団体にお越しいただき、手話体験会を実施するなど、多様なコミュニケーション手段への理解を深める機会を設けております。	より多様な意思疎通の方法に対応できるよう、職員全体のスキル向上が今後の課題であると感じております。今後は、定期的に簡単な手話やコミュニケーション支援の研修を取り入れることを検討し、すべての子どもや保護者の方が安心して思いを伝えられる環境づくりに努めてまいります。また、日々の支援の中で気づいた効果的な関わり方を職員間で共有し、より質の高いコミュニケーション支援を目指してまいります。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域 に開かれた事業運営を図っている	2	1	3	現在のところ、地域の方をお招きする行事や催しは実施しておりませんが、今後は地域の資源や施設を活用しながら、地域の皆さまと交流できる機会を設けることを検討しております。子どもたちが地域社会の中で温かく見守られ、関わりを持てるような取り組みを意識してまいります。	地域とのつながりがまだ十分に築けていない点が課題であると感じております。今後は、地域行事やボランティア活動への参加、または施設見学や共同イベントの開催など、地域住民の方々や自然に関わることでできる方法を検討してまいります。地域に開かれた事業所として、交流を通して理解を深め、信頼関係を築けるよう努めてまいります。
	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周 知している	6			現在、緊急時対応や感染症対策などのマニュアルを保護者の皆さまに直接お配りする形では周知しておりませんが、必要に応じてSNS等を活用し、注意喚起や施設としての対応方針を迅速に発信するよう努めております。特に感染症拡大時や天候不良などの際には、できるだけ早く正確な情報をお伝えできるよう心がけております。	マニュアルの内容や非常時の対応方法について、職員や保護者の皆さまへ十分に共有できていない点を課題と感じております。今後は、職員研修や掲示物などを通して対応手順を明確にし、保護者の方にも分かりやすい形でお知らせできる方法を検討してまいります。また、定期的に緊急時対応の見直しを行い、より安心してご利用いただける環境づくりに努めてまいります。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、 救出その他必要な訓練を行っている	6			定期的に避難訓練や通報訓練を実施し、非常時に落ち着いて行動できるよう取り組んでおります。また、実際の訓練結果や社会状況を踏まえて、定期的にBCP(事業継続計画)の見直しを行い、より実効性の高い対応ができるよう努めております。職員全員が共通の認識を持ち、安全に行動できる体制づくりを心がけております。	避難訓練の内容が定型的になりがちな点や、想定外の状況への対応力をさらに高める必要があると感じております。今後は、地震や火災だけでなく、水害や感染症など多様な場面を想定した訓練を取り入れることを検討してまいります。また、保護者の皆さまにも訓練内容や安全対策について分かりやすくお伝えし、安心してお子さまをお預けいただけるよう努めてまいります。

(放課後等デイサービス)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善 内容又は改善目標
非常時等の 対応	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	6			外部研修への参加に加え、事業所内でも定期的に虐待防止に関する内部研修を実施しております。研修では、職員同士で支援中の関わり方を振り返り、子どもの権利を守る視点や、より丁寧な対応について意見交換を行うよう努めております。日々の支援の中で小さなサインに気づけるよう、意識向上に取り組んでおります。	研修内容が一方的になりやすく、職員一人ひとりが実際の支援にどう生かすかをさらに深める必要があると感じております。今後は、事例検討やロールプレイなど、より実践的な研修方法を取り入れることを検討してまいります。また、外部専門機関との連携を強化し、最新の知見を学び続けることで、安心・安全な支援環境の維持に努めてまいります。
	④①	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6			外部研修や内部研修の実施に加え、「虐待防止及び身体拘束適正化委員会」を適時開催し、職員間で正しい知識と判断基準の共有に努めております。やむを得ず身体的接触を伴う行動制限を行う場合には、お子さまの状況を十分に確認した上で、事前に保護者の方へ丁寧な説明を行い、ご了承をいただいてから実施しております。また、了承を得た内容については必ず書面として記録し、透明性の確保に努めております。	身体拘束に関する判断や対応方法について、職員間でより一層統一した理解を深める必要があると感じております。今後は、定期的なケース検討会や外部専門家による講習の実施を検討し、より適正かつ慎重な対応が行えるよう努めてまいります。また、保護者の方にも身体拘束に関する方針や判断基準を分かりやすく説明し、ご理解を深めていただけるよう情報共有の方法を改善してまいります。
	④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3		契約時にご提出いただくサポートブックをもとに、お子さまのアレルギーの有無や注意点について確認をさせていただいております。また、特別活動や調理を伴う行事の際には、事前にご家庭へ確認を取り、誤提供が起きないよう細心の注意を払っております。アレルギー反応のような症状が見られた場合には、提供したおやつや食品の記録を残し、原因の特定ができるよう工夫しております。	アレルギーに関する情報共有の方法や職員間の確認体制について、さらに徹底が必要であると感じております。今後は、医師の指示書に基づく対応をより明確にし、アレルギー対応マニュアルの整備や職員研修の充実を検討してまいります。また、緊急時の対応手順についても定期的に見直しを行い、安全で安心な支援体制づくりに努めてまいります。
	④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1		日々の支援の中で職員が気づいた危険やヒヤリとした出来事を「ヒヤリハット」として記録し、職員間で共有するよう努めております。特に緊急性や再発の可能性があるものについては、掲示ではなく回覧形式で迅速に情報を共有し、早期に対応できるようにしております。こうした取り組みを通して、事故の未然防止と安全な環境づくりに努めております。	ヒヤリハットの記録や共有は行っておりますが、事例の分析や改善策の検討が十分に体系化されていない点を課題と感じております。今後は、事例を定期的に振り返る機会を設け、原因の傾向を整理したうえで具体的な防止策を職員全体で共有できるよう検討してまいります。また、新しい職員にも分かりやすく学べるよう、事例集の更新や研修への活用にも努めてまいります。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。